

# 「北海道の 野生動物復元 プロジェクト」

「オオムラサキ・プログラム」「オオワシ・プログラム」からはじめます。

## 1 プロジェクトの趣旨

1995年に制定された「札幌市環境基本条例」は、“環境文化都市さっぽろ”をめざして基本理念や基本方針を示しています。その中で、自然性の高い森林を有する札幌市は、将来にわたって森林を保護し、そこに生息・生育する生物の多様性を確保していくため、適切な保全の仕組みづくりや野生生物の保護を推進することが課題であるとしています。

市街地近郊の森林など身近な自然環境を市民が自然と触れ合う場として活用しながら、同時に、市街地と郊外との自然の連続性を確保する空間として保全していくことが必要であり、その母体となる緑を創出する施策にも力を入れてきました。

このことを踏まえて、円山動物園は動物園単体の活性化だけでなく、円山原始林、円山川、円山公園などの周辺環境も含めた円山エリア全体の環境保護・生物多様性の確保を行い、市内全域・北海道全体の自然環境を考えるメッセージを世界に発信することを目的として、「北海道の野生動物復元プロジェクト」に挑戦します。

その手始めとして、今回お知らせする「オオムラサキ・プログラム」と「オオワシ・プログラム」に着手します。



## 2 「オオムラサキ・プログラム」「オオワシ・プログラム」とは

昭和の札幌の原風景にあったオオムラサキやオニヤンマ、ニホンザリガニの復元からスタートし、親子で観察する体験イベントなども企画。動物園を世代間の絆づくりの場としてもさらに活用していきます。また、同様な活動をしている学校や市民グループの発表の場としても展開していきます。

次に北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の研究・活動機関と連携しながら、円山動物園の繁殖技術で復元し、鷹匠技術により飛行訓練を行い自然界に放鳥、野生復帰させることに挑戦します。

円山動物園で育ったオオワシが野生に復帰し、知床から飛び立ち、北海道の天空を舞う姿は、札幌市民だけでなく北海道民の環境保護や自然再生についての意識をさらに高めていくでしょう。

こうした動きを通して、わたしたちの円山動物園が一丸となることはもちろん、市民、道民、産官学などが連携した新しい環境ムーブメントにもつなげていきたいと願っています。

## 3 具体的な取組み

(1) 「オオムラサキ・プログラム」については、今年から生息調査を始め、来年度には一部の昆虫について園内で楽しめるようにするほか、札幌に生息する昆虫を中心とした昆虫展も計画しています。これについては、同様の活動に取り組む市民、学校、企業などと第一回目の打合せを9月中旬に開催する予定です。

(2) 「オオワシ・プログラム」については、5年間程度のスパンで挑戦することとし、繁殖・野生復帰技術の調査研究と他の研究・活動機関との情報交換から始めます。

この手始めに、本年11月には円山動物園の鷹匠の資格を持つ飼育員を、先進事例を持つアメリカに派遣。野生復帰研究の盛んなミネソタ大学猛禽センターや、カリフォルニアコンドルの野生復帰事業に取り組むサンディエゴ動物園で調査を行う予定です。